

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 そら 組	5 月 30 日 (金)	岩寄

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～天気～ 虹の色は何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃から天気について興味を持って、話す姿が見られる。虹はなかなか普段見られないこともあり、子どもたちの声が上がることがあまりないが、「虹いろ」など色には興味を示している姿がある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:50～10:10	・サークルになり、どんな天気があるのか考え、意見交流をする ・「晴れ、くもり、雨、雪の他に知っている天気はあるかな？」と問いかけたり、①②プログラムでの活動を振り返られるような問いもかけていく。 ・虹の意見が出たことを確認し、今回は、虹について活動することを伝える。 ・虹を見たことがあるか、虹はどんな色か考え発表する。「虹はどんな時に見ることが出来るかな？」と問いかけ、実体験から天気との結びつきに発展するよう援助する。 ・意見はホワイトボードにまとめていく。	【環境設定】 ・マインドマップを使用して天気について話し合いを通して想像が広がるようにしていく。 ・室内で虹の写真や描いた絵を見ながら話し合えるスペースを確保する。 ・室内で実験が安全に行えるスペースを確保する 【準備物】 ・白画用紙 ※人数分 ・クレヨン（色鉛筆）※人数分 ・ペットボトル(表面が滑らかで円筒形のもの) ・水 ・アルミホイルをつけた白色灯の懐中電灯 ・白い紙 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・写真や図を掲示するためのマグネットなど ■参考資料 ・実際の虹の写真 【事前準備】 ・虹のイラストを人数分用意しておく。 ・虹のイラストの活動でクレヨンや色鉛筆を十分な数を準備しておく。 ・予め実験に使うアルミホイルをつけた白色灯の懐中電灯を準備しておく。 【実験準備】 ①アルミホイルを20cm四方に切り、真ん中にカッターで5cm程度の切れ目を入れる。 ②懐中電灯の真ん中に切れ目がくるようにアルミホイルをかぶせ、輪ゴムでとめておく。 ・ 予め実験の内容を行っておく。 【実験】 ①ペットボトルに水を入れ、懐中電灯の光がペットボトルに反射する位置に紙を置く ②懐中電灯とペットボトルの角度を見ながら袖の位置を変え、虹の写る場所を探す。
10:10～10:20	- 虹の色や虹が出る時の空の色などを考えながら、自分たちの思い描く虹を自由に描けるように促す ・虹の色については固定せず、それぞれが感じる色で書いて良い事を伝える。 ・出来上がった虹の絵をホワイトボードに掲示し、みんなで見合う時間を作る。	
10:15～10:30	・アルミホイル、懐中電灯、ペットボトルを使って実験を行う。【実験①】 ・実験の手順を知らせ、どうなるか考え、発表する時間を作る。 ・「この実験でどうなると思う？」「どんなものが見えるかな？」と問いかけ、発言を援助する。 ・光を水に通すことで虹が現れることを観察し、実際に虹を作る体験をする。 ・「何が見えるかな？」「虹ができたね。虹は何色かな？」と伝え、観察の視点や試行錯誤が広がるようにする。	

10:30～10:40	・実験を仕組みを振り返り、ペットボトルの水に光を当てる事で虹が現れることを確認する ・実際の虹の写真を見て、虹ができるのはどんな時か考える。 ・「虹がどういう時に現れるかな？」と問いかけ、虹ができる仕組みを考える。 ・「虹が見える時は、雨上がりが多いね。」 「虹が見えている時、太陽はいるかな？」と問いかけ、水(雨、水蒸気)と光(太陽)によって虹ができていることに気付けるように工夫する。 ・次回は、太陽についての調べてみることを提案する。	子供が虹の仕組みを説明し、虹の仕組みを説明する。
-------------	---	---------------------------------

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・最初は様々な天気についてマインドマップを用いて考えが広がるようにホワイトボードに記録していった。 ・虹について、どんな形、どんな色、どんな天気に出てくるのかを問いかけ、子どもたちは自分の考えを自由に話したり、描いたりした。 ・その後、光の実験を行い、どのようなものが見えるのか予測したり、光が水を通ると実際に虹が現れることを確認した。 ・実験結果を得て、実験に使ったものを自然の中の太陽の光や雨、水蒸気と結びつけ、自然の中で現れる虹について考えを深めていった。	【子どもの姿・声】 ・天気について話を深めていくと、雨や雪などの他に、みぞれやあられ、竜巻などの様々な意見が上がっていた。 ・実験では、虹ができた瞬間すぐに、「わあ！虹がある」と驚きの声を上げ、興奮していた。 ・実験で虹をみることができると最初は「虹を隠してる」などの意見も上がっていた。 ・「白い光と赤い光どっちも見えるかな」と色の違いによって虹ができるのかどうかを考える姿が見られた。 ・実験後の振り返りでは、ペットボトルの水や懐中電灯の光は自然の中では太陽や雨に該当するのではないかという考察をする姿も見られた。 【保育者との関わり】 ・子どもたちが虹についての様々なイメージを持つことができるように「虹ってどんな色かな」「形かな」「どんな天気の時かな？」「虹のできる空は何色かな」などの問いかけを行った。 ・実験中には、「どうなるかな？」「何か見えるかな」と問いかけ、実際の変化を観察しながら子どもたちの興味を深めていった。また、実験を通じて光と水で虹ができることを確認し、自然の中で起きる現象である虹も同じ原理でできていることを「何を使ったら虹ができたかな？」と実験を振り返られるように話を深めていった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・天気についての話を深めてきたことで子どもたちの中でも天気についての興味関心が深まり、話し合いでも様々な意見が出るようになってきた。また、自分の想像する虹を描くときには最初は「この色違う」と友だちの絵について否定的な姿もあったが、様々な考えがあつていいことを繰り返し伝えていくことで少しずつ友だちの意見を深めていこうとする姿が見られるようになってきた。	虹という子どもたちにとって興味関心が高い内容でしたので比較的集中して取り組むことが出来たのではないかと思います。本来の虹の色などを知ることが出来たのも大きな発見だったのではないかと思います。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 そら 組	7 月 17 日 (木)	岩 寄

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～水～ 水はどこからくるの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水が園のどのようなところにあるのか、どうやってやってくるのか、つくられるのかを今まで取り組んできた内容を思い出しながら雲に関連付けて話す姿がある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:10～10:40	・水はどこからくるのか考えてみる。 ・水の循環が分かる絵本を読み、水の循環について気づいたことを伝え合う。 水がどこからくるのかを調べるために図鑑を使って調べるチーム、タブレットと絵本を使って調べるチームの2チームに別れ、調べてみる 10分で図鑑とタブレット・絵本のチームを交代する	
10:40～10:50	・水がどこからくるのか、模造紙に水の旅を絵で表現する。 ・作成した水の旅の絵を見ながら、水がどこから来るのか振り返る。	
		【準備物】 ・水の絵本 ・水の図鑑 ・タブレット ・模造紙 ・クレヨン ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・図鑑や絵本を読んで、水の循環について理解を深めておく。 ・タブレット内で子どもたちにとって分かりやすい水の循環についての図を見つけておく

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・前回の園内水マップを全員で見ながら水がどのような場所にあるのかや自分たちが使っている水はどのようなところからくるかなどに話を膨らまし、進めていった。 ・実際に図鑑を使ったり、タブレットなどでも循環について調べていく中で、子どもたちの疑問に上がったことを一緒に調べていきながら確認していく。 ・全員で水の循環を思い出しながら分担して描くことができるようにした。	【子どもの姿・声】 ・「お水は温かくあるとなくなっちゃう」「水蒸気だ」などと過去の実験について思い出しながら考える姿が見られた。 ・「ダムってどんなところ?」「下水処理場って何?」と図鑑や水の循環マップを見て疑問に思ったことを保育者に聞いていた。 【保育者との関わり】 ・水の循環マップや図鑑などを見て子どもたちが疑問に感じたことをその場で一緒に調べたり、問いかけをしていきながら一緒に学びを進めていった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
水が流れる仕組みについて意欲的に知ろうとする姿があった。また、前回などの活動から繋げるなどの探究活動への意欲的な姿も見られる。その意欲から、難しい仕組み(浄水場や水の循環)も、動画や図などを見ることで子どもたちなりに理解をしていた。水の循環について難しい内容ながらも、図鑑などを用いて見ることで興味を持って考える姿があったため、子どもたちの興味のあることから探究をより深めていきたい。	過去の実験を子ども達が覚えており、それについて話を膨らますことはとても良いと思います。今後も子ども達の疑問を上手く拾って次の内容に繋げていくことが大事ですのでよく聞いてあげましょう。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 そら 組	10 月 23 日 (木)	魚本

● 実施計画

活動テーマ		
アート ～色の不思議～ 5つの色から虹を作ろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
色の混合に詳しくなり、どんな色を混ぜたらどんな色になるのか理解が深まってきている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:30～9:40	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
9:40～10:10	虹は何色あるのか、何色があるのかを発表し、描いてみることを提案する。 保育者が描いた虹の絵と、印刷した虹の色は何が違うのか見比べる。 虹色の色はどのような混合で作ったら良いのかみんなで考える。 作った色を使って見本を見ながら順番に色を塗る。	
10:10～10:20	完成した虹を見て、どの色が綺麗なのか、違いはあるのか見比べてみる。	
		【準備物】 虹の見本の絵 絵の具で描いた虹の絵 絵の具(赤、青、黄色、白、黒) パレット 筆 画用紙 【事前準備】 ・わかりやすいように見本を活動内で描けるようにする。 ・市販の絵の具で描いたバージョンも比較のために置いておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・色の混合について知っている事について発表した後、虹は何色があるのか、何色使っているのかホワイトボードにまとめた。 ・実際に市販の色で描いた虹の絵を保育者が描いた後、虹は混合を使って表現できることを伝え、どの色を混合したら色が作れるのか一緒に考えた。 ・絵の具を使って自分なりの色を一色ずつ作り、虹を描いた。 ・全員の虹を見比べ、どの色が綺麗か、見比べて色の違いはあるのか一緒に考えた。	【子どもの姿・声】 ・色の混合について知っていることを口々にいう姿があった。虹は何色で何色でできているかを考える時も、赤をピンク、黄緑を緑など発表する時点で色の見え方の違いがあった。 ・虹の色はどの混合で作れるのか考えている時も、知識や経験を思い出し、保育者が教えていなくても予想して発表することができていた。 ・実際に虹を描いている時も、「もう少し赤足してみよう」「この色混ぜたら違う色になった」など理想とする色を考えられたり、色の不思議さを体験してより興味を持って活動する姿があった。 【保育者との関わり】 ・虹の色について考えている時に、赤をピンクと答えている児に対し、「違うよ」と言う意見が出たので、色は人によって感じ方は違うことを伝え、発表しやすい雰囲気作りを行なった。 ・自分なりの色を混合で作る際、「これであってる」と聞く姿があったので、大きく違わない限り、自由に表現して良いと伝え、自信を持って表現できるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・色について探究活動を行うことで、知識も経験も増えたことから、自信を持って発表する姿が多く見られるようになった。これでいいや、と適当に終わらせてしまっていた児も自由に色を表現する楽しさを重きに置くことで、じっくりと混合を楽しんだり、自分の作った色、描いた絵に愛着を持つことができていたので、普段の自由画帳や製作でも概念に囚われすぎず、表現を楽しめるような環境を作っていきたいと感じた。	見本を見たうえで自分達で想像し考えながら進めていくことを楽しんでもるように見られ、自分たちなりの虹が出来たと思います。自分なりの表現を楽しめるよう引き続き色んな経験を積めるような内容を普段から取り入れていきましょう。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 そら 組	1 月 16 日 (金)	魚本

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～ お金ってどんな形？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
お買い物にいたり、お年玉でもらったりとお金には興味がある中で、何円があるかにも着目して話す姿も見られた。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:05	・前回の活動を振り返り、物々交換がうまくいかなかった理由とお金の利便性を再確認する。 ・お金はどんな形、色、模様かを考えてみる。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にします。 【活動使用教材】 ・模擬貨幣（紙幣、硬貨） ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・模擬貨幣をクラス人数分以上用意しておく。 ・デザインのヒントになる図鑑等を用意しておく。
10:05～10:30	・日本のお金を観察することを伝える。模擬貨幣がおもちゃであることを明確に伝える。 ・グループごとに模擬貨幣を配り、自由に観察する（色、形、数字、絵、触感、重さなど）。 ・観察して気づいたことを発表し、友達の意見も共有する。 ・自分だけの（またはクラスだけの）オリジナルのお金について、形や値段、絵などを考える。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入として、前回の振り返りをおこない、今回は今の日本のお金についても見て見る提案をする ・模擬紙幣を配り、どのようなものが描かれているのかじっくりと観察できる時間を設けて、発表していった。(数字や絵柄、手触りなど様々な視点でみることができるように問いかけていった) ・実際に自分たちのオリジナルのお金を作ることを提案し、少人数グループに分かれて考えられるようにしていった。	【子どもの姿・声】 ・模擬貨幣の観察で、ただ数字を見るだけでなく、「お札には人の絵が描いてある」など、視覚、触覚、聴覚を使って様々な発見が見られた。 ・模擬紙幣に描かれた絵を見て、「これアートのときにみたよね」と前回とのつながりを感じる姿が見られた。 ・オリジナルのお金を考える際には、「9円玉がいいな」「虹色だったらカラフルでいいよね」など、自由でユニークな発想が展開された。 【保育者との関わり】 ・模擬貨幣の観察では「何が描かれてるかな？」だけではなく、「触ってみたらどう？」と手触りでも感じられるように進めていった。 ・子どもたち一人ひとりの新しい発見を認めていきながら進めていった。 ・発表時、質問や問いかけを通して発表内容が具体的になるように促していった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・模擬紙幣の観察では実際に見た物、感じた事を次々と話す姿があったり、前回のアートとの単元も繋げて考えてみようとする姿も多く見られた。わくわく探求を通しての繋がりも感じられるようになってきている。その日で終わるのではなく、繋がりを大切に今後も探究活動を進めていけるようにしていきたい。 ・オリジナルお金など自分たちでつくることが好きな子どもたちでもあるため、「自分たちで」という部分も大切にして友だちとの繋がりも大切にしていきたい。	